

平成 30 年度 第 1 回大阪支部評議会の議事概要

開 催 日	平成 30 年 7 月 13 日（金） 13：55～16：10
開 催 場 所	全国健康保険協会大阪支部 会議室
出 席 者	内野評議員、北山評議員、比嘉評議員、萬野評議員、山本評議員（議長） 吉木評議員（五十音順）
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成 29 年度 決算（見込み）について 2 平成 29 年度 大阪支部事業報告について 3 その他
議 事 概 要 （主な意見等）	<p>1 平成 29 年度決算（見込み）について</p> <p>事務局より資料に基づき平成 29 年度決算（見込み）について説明する。</p> <p>≪主な意見≫</p> <p>【事業主代表】</p> <p>将来的に単年度収支が赤字になる主な要因は何か。</p> <p>【事務局】</p> <p>現在黒字傾向にあるのは被保険者数の伸びによるところが大きい。今後は高齢者の割合が増えるため、今までのような伸びは期待できない。標準報酬についてもリーマンショック前の状況に戻るまでに 10 年かかっていることから将来的な伸びもそれほど見込めない。支出面の保険給付費は過去減少したことがない。高齢者の拠出金についても減る要素が見当たらない。これらの要素が、今後の赤字傾向の要因と見ている。</p> <p>【学識経験者】</p> <p>国保の加入者数が減少し、協会の加入者数が増えているのはなぜか。</p> <p>【事務局】</p> <p>あくまでも推測ではあるが、社会保険の適用拡大によって、今まで適用されていなかった被保険者が協会に加入しているものと思われる。そういった方は、協会けんぽに加入する前は国保に加入していたと思われる。</p> <p>【学識経験者】</p> <p>小規模な事業所が国民健康保険から協会に移っているということは、比較的報酬の低い人が加入しているということになる。つまり収入である保険料も比較的低い金額。対して支出面の医療給付費は一定的に増えている。収入の増加割合よりも支出の増加割合が多くなっているということは協会けんぽとしてどのように考えているのか。</p>

【事務局】

被保険者数の伸びにくらべ標準報酬が伸びていないことは、短時間就労者が増えていることが要因の1つであると思う。現時点では前年度比較で保険料収入は4.6%、医療給付費は4.2%の伸び率となっている。伸び率だけで見るとプラス収支となっており、当面は単年度でみると黒字となるが、これが逆転すると赤字になる。日本の人口は減少傾向にあり、高齢者割合が高くなることからいずれ赤字になることは避けられないと考えている。

【学識経験者】

今後の赤字傾向を解消するためには支出面を減らすべきであるが、大阪支部として支出を減らすための中長期的なプランを聞きたい。

【事務局】

どのようにして医療費の伸びを抑えるかが重要であると考えており、データヘルス計画として糖尿病性腎症の重症化予防に取り組む計画をたてている。その実施のためには加入者の方々に健診を受診していただくことが重要。生活習慣病予防健診を受診してもらい、重症化予防を行い、健康づくりに取り組むことは、本人にとってももちろんだが、協会にとっても良いことであると考えている。

【学識経験者】

高度先進医療（医療費が高額）についてはどのように考えているか。財政を圧迫しているように思える。

【事務局】

確かに財政面のみを見ると良い方向には働かないかもしれない。ただ、一時的には医療費給付費は上昇するが、病気が完治することにより最終的には医療費は抑えられ財政的には安定すると考える。

今注目しているのは健康寿命である。健康でいる時期を延ばすことが重要であると考えている。

【事業主代表】

外国人が治療のために来日し、一時的に健康保険に加入する、というケースが増えていると聞いているが、協会けんぽとして調査はしているのか（国保の話かもしれないが）。

【事務局】

年金機構側の話にはなるが、海外在住者を扶養家族として認定する際は証拠書類を求める等、適用の段階での調査は行っており、その情報が協会にも届くようにはなっている。少しずつだが調査の動きはある。

【事業主代表】

国の方針で、税・社会保障を一元管理しようという動きがある。協会にもその件に関する連

絡はきているのか。

【事務局】

直接的には協会に情報はきていない。

【学識経験者】

協会けんぽの保険財政の傾向として赤字構造がどんどん広がってきているが、単年度収支は黒字になっている。これは一人当たりという見方をしているからだと考えるが、現状黒字になっているのは、被保険者数の伸びによるものであり、本質は赤字になってもおかしくない、ということなのか。

【事務局】

おっしゃるように、被保険者数の増加が黒字の主な要因である。少子高齢化の影響で、高齢者の割合が大きくなる以上、必然的に医療給付費は増加するため、一人当たりで考えるとやはり赤字傾向となる。

【学識経験者】

根本的には、高齢者が増えていること、それに伴う拠出金が増加していくことが問題である。高齢者の医療費を抑えることくらいしか対策としてはできないのではないかと。難しいことであるとは思いますが。

【事務局】

出生率等と比較すると、将来的に高齢者割合が高くなることは確実である。年金も減らすことはできない。医療費の増加を少しでも抑えることが社会保障制度を維持するためには重要である。

【事業主代表】

事業主は皆、賃金を伸ばそうと苦労しているが、思うように賃金が伸びていないのに医療費が伸びている。医療費を抑えることももちろん重要だが、抑えられないように思う。それならば、国庫補助率を20%まで引き上げてほしい。

【事務局】

協会としては20%の国庫補助率をあきらめたわけではない。

2 平成29年度大阪支部事業報告について

事務局より資料に基づき平成29年度大阪支部事業報告について説明する。

《主な意見》

【学識経験者】

第1期データヘルス計画にて、女性の喫煙率が高いことに驚いている。

【学識経験者】

(データヘルス計画の) 取組内容の記載があるが、数値を踏まえた結果どうするのか。

【事務局】

男性の喫煙率はほぼ全国平均並みで女性のみが高かった。27年度の喫煙率が24年度に比べ下がっていないが全国的に見ても上がっている。ただし、喫煙率については健診受診の際の問診票から拾っている数値になるので、35歳以上の健診受診者が集計の対象となっており、全てを反映していない。第1期データヘルス計画については目標の立て方が甘かったことは認めざるを得ない。健康意識が比較的低い人が受診勧奨により健診を受けることで、喫煙率が当初目標よりも高く出る可能性もある。第2期データヘルス計画については、今回の反省も踏まえて計画を立てているので随時、数値を出しながら報告するつもりである。

【事業主代表】

組合管掌健康保険から協会けんぽに移ってくるケースは多いのか。

【事務局】

29年度は4月解散を含めて3つの組合が移管してきている。加入者数では約3万人。

【学識経験者】

KPIについて結果達成ができたかどうかを最終的にしっかり示してもらいたい。

【事務局】

最終結果、及びどのような問題があったかは必ず報告させていただく。

3 その他

事務局より評議員改選についての説明を行った。

特 記 事 項

- ・傍聴者 なし
- ・次回開催：未定